ゆがふ製糖 株式会社

ゆがふ
世果報

沖縄の言葉で、世界の幸せやすばらしい事という意味。
また、「豊年」や「五穀豊穣」の願いが込められた言葉です。

ゆがふ製糖は 沖縄本島全域の
さとうきびを 取り扱う分蜜糖工場です。

「生産農家と共に」をスローガンに増産に全力で取り組み、
「農家の喜び」と「沖縄の元気」を支え続けます。

さとうきびで沖縄の未来を照らす

ごあいさつ

本日はようこそ　私ども　ゆがふ製糖の（ホームページへ）お越しくださいました。

私どもは平成27年（2015年）9月1日に沖縄本島の製糖企業2社（球陽製糖㈱並びに翔南製糖㈱）が合併し、社名を“ゆがふ製糖”に変更して再スタートしました。

長い沖縄糖業の歴史の中で、第二次世界大戦前には沖縄本島で2,600余の工場（その殆どは集落単位にあった製糖小屋や共同製糖所＝サーター小屋といわれていました）が時代の変遷と共に幾多の道を歩んで参りましたが、いよいよ1社体制に至ることとなりました。

その間、戦後沖縄経済復興の一翼を担った時期もあるほど、さとうきびは島嶼県である沖縄にとって大変重要な換金作物として地域経済を支えております。

台風常襲地域の沖縄にあって、直撃を受けて倒伏しても、そこから太陽に向かって起き上がって行く、その回復力は見事なもので、沖縄に最も適した作物であるといえます。

皆様は、「さとうきび」から作る砂糖と言えば、頭には黒糖が思い浮かぶかも知れませんが、私どもが製造しているのは「原料糖」（＝甘しゃ分蜜糖）となります。

皆様がよくスーパーなどでお買い求め頂く「グラニュー糖」や「三温糖」の素となるものです。

当地の調査では、さとうきびが地域にもたらす経済効果はさとうきび生産高の4.3倍といわれており、生産農家に始まり、肥料を作る人、工場で働く人、さとうきびを運ぶ人、等々に恩恵をもたらします。そして、多くの人に受け継がれてきたさとうきびを最後に受け取り、砂糖の結晶を造り出すのが私ども製糖工場ですが、そこはゴールではなく、砂糖製造の過程で排出される副産物は再び沖縄の大地へと還り、新たなさとうきびの育みへと繋がっていきます。

このように、さとうきび生産の循環の要を担う砂糖製造業は、まさに“小さな島の大きな産業”なのです。

弊社ホームページの「さとうきびの一年」や「原料糖が出来るまで」などで糖業に関する知識を深めて頂くとともに、県内の高校生を対象に5年以上続けております「ウージ（沖縄の方言で「さとうきび」のことです）のある風景：フォトコンテスト」の作品群を通して、「さとうきび」が沖縄の日常生活に密着した如何に大切な作物であるか、認識を新たにしていただければ私どもも幸甚に存じます。

ゆがふ製糖株式会社
代表取締役社長　**島尻勝広**

ゆがふ製糖株式会社　具志川工場

会社概要

商号	ゆがふ製糖株式会社
設立年月日	平成５年８月11日
合併による社名変更日	平成27年９月１日
資本金	１億5000万円
従業員数	76名（社員73名、常勤役員３名）
株主	新中糖産業㈱、㈱りゅうとう、金秀興産㈱、北部製糖㈱、JAおきなわ
所在地	本社及び工場、北地区農務部／沖縄県うるま市字川田330番地の１ ※南部事務所／沖縄県八重瀬町字伊覇82番地
事業内容	砂糖の製造並びに販売
	砂糖製造副産物の加工並びに販売
主な販売先	三井製糖㈱、北部製糖㈱、日新製糖㈱、丸紅㈱、㈱國場組、㈱明治フードマテリア
工場公称能力	2,100㌧／日

ゆがふ製糖株式会社

本社及び工場、北地区農務部

〒904-2232
沖縄県うるま市字川田330番地の1
TEL098-979-1101
FAX098-979-1102

南部事務所

〒901-0405
沖縄県八重瀬町字伊覇82番地
TEL098-998-7155
FAX098-998-7165